

文芸書



**田辺聖子の万葉散歩**  
田辺 聖子/著  
人を想うこと、愛すること、別れゆくこと。千年変わらぬ人の真情を歌った「万葉集」の世界を、田辺聖子ならではのまなざしで紹介するエッセイ集。『Dame』連載を単行本化。

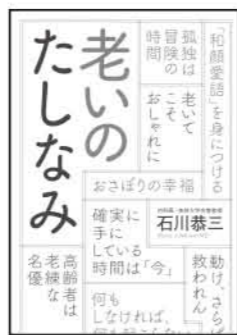
首里の馬 【第163回芥川賞】  
破局 【第163回芥川賞】  
140字の文豪たち  
ページュ  
パールグレイの瞑想 歌集  
一人称単数  
チングス紀 杳冥 8  
希望の峰マカルー西壁  
捨て猫のプリンアラモード  
鼠異聞 上・下  
三世代探偵団 3  
四畳半タイムマシンブルース  
二重拘束のアリア  
ポーラスター フィデル出陣  
そこにはいない男たちについて  
52ヘルツのクジラたち  
業平 小説伊勢物語  
ビブリア古書堂の事件手帖II 扉子と空白の時

高山羽根子  
遠野 遙  
川島幸希  
谷川俊太郎  
岡田衣代  
村上春樹  
北方謙三  
笹本稜平  
麻宮ゆり子  
佐伯泰英  
赤川次郎  
森見登美彦  
川瀬七緒  
海堂 尊  
井上荒野  
町田そのこ  
高樹のぶ子

スキマワラシ  
二百十番館ようこそ  
アルパカ探偵、街をゆく  
僕の神さま  
口福のレシピ  
ハリネズミは月を見上げる  
屋上のテロリスト  
純喫茶パオーン  
さよなら願いごと  
アーサーの言の葉食堂  
かわいい見聞録  
仕事本 わたしたちの緊急事態日記 左右社編集部

※紹介しきれしていない本、雑誌、漫画も多数ありますので、お時間のある時ぜひ図書館へお越しください。

一般書・児童書



老いのたしなみ  
石川 藤三 著



ごみ清掃員の日常 ミライ編  
滝沢 秀一 原作



プラタモリ3  
函館 川越 奈良 仙台  
NHK「プラタモリ」制作班監修



不思議なお菓子レシピ  
太田 さちか 著



自分らしいオシャレが見つかる!  
ナツメ社



部活めし!  
村田 裕子 監修 料理



水族館のサバイバル  
ゴムドリco.文 韓賢東 絵

上士幌町図書館ブログでも入荷情報をご案内しています。  
<https://horonlibrary.blogspot.com/>



かみしほろ  
とほよかんたより



上士幌町図書館 生涯学習センター1階 ☎2-4634

◆開館時間 10:00~18:00 貸出制限なし(ただしDVDは3タイトルまで)

◆休館日 毎週月曜日・月末日(最後の平日)・年末年始(12月30日~1月5日)

「にこよむチャレンジ」小学生今年も挑戦!  
~ファイターズキャンペーンコラボ編~

この夏休みも図書館では、小学生を対象に「にこよむチャレンジ」を実施しました。今回は、北海道日本ハムファイターズ読書推進全道キャンペーンと連動企画として行っています。これまでは、25冊、46冊を読破した人に表彰していましたが、今回は、キャンペーン特製読書通帳の記帳欄を全部埋めた人、つまり16冊読破した人に認定証を授与します。さらに通帳をもう1冊埋めた人(32冊読破者)には、達成証とプレミアム利用者カードを授与します。

【16冊認定者】

小嶋由紀乃さん(上小6年)、吉田芽琉さん(上小2年)、  
小嶋京之朗さん(上小5年)

【32冊達成者】

宇佐美暁丸さん(上小3年)、菅原芽生さん(上小2年)、  
長良優希さん(上小5年)、木田絢望さん(上小1年)、菅原奈々さん(上小1年)  
※氏名は認定順・達成順に掲載

上士幌町民文芸誌

火群 46号 作品募集中

火群編集委員会では、来年3月発行予定の「火群」第46号の作品原稿を募集しています。多くの町民のみなさんからのご投稿をお待ちしています。

◆提出期限：令和2年10月31日(土)まで

●詳細は、町民文芸誌「火群」編集委員会事務局

(図書館担当水越 ☎2-4634)までお問い合わせください。

ようこそおはなしの世界へ

★お話し会

◆日時 10月10日(日) 10:30~

◆内容 お話し会「カッコウ」による絵本の読み聞かせ・紙芝居

◆会場 生涯学習センター視聴覚ホール

◆定員 10名(感染対策により、制限させていただきます)

◆注意点 ・マスクをつけてご参加ください。

・体調の優れない方は、参加をご遠慮ください。



★えほんのトピラ

◆日時 10月17日(日) 10:30~

◆会場 生涯学習センター視聴覚ホール

◆定員 10名(感染対策により、制限させていただきます)

おすすめの1冊

神様のポート  
江國 香織 著



一定の期間で、住む場所を転々と変える根なし草のような生活を送る母、葉子と娘の草子。葉子は、引っ越し先で、ピアノ講師をしたり、酒場で働いたり、一見何でもない市井の人として生活しながら、どの街に越してもプライベートな人間関係を築くことを拒みます。

「必ず探し出す」と約束した恋人の約束を信じ、「私はあのひとのいない場所になじむわけにいかないのだ。そこは私のいる場所ではないから。」「なじんでしまったらもうあのひとには会えない気がするから。」と思い、恋人と別れたまま変わらない自分でいなくてはならないと考えているからです。一方で娘の草子は、母を信頼し、母の考えを尊重しながらも、「ママは現実を生きていない」と考え始めます。

大きな事件や派手な展開はありませんが、透明感のある文章で詩的なニュアンスを含みながら書かれた文章が心地よく、自然と読んでいる側に二人の気持ちが同化してくるようです。

「神様のポート」に乗ってしまった二人の親子がたどりつく場所を二人の気持ちになって、ぜひ体感してみてくださいませんか?